

資料1

第5回協議 の整理



令和6年度キックオフ 早坂先生講演会

新たに示唆されて主な意見

○「ふるさと中川学(仮称)」について校内にコーディネーターを配置

- ・人材「体験学習コーディネーター」野外、アクティブラーニングとか地域を使った学習を教員だけではデザインできないので補助する人が数人
- ・中川学(仮)コーディネーター(村費) 常勤 高給

○企業や団体等との連携・協働の推進

- ・既存の団体ボランティアを生かしつつ、「子どもの学び」につながる意識仕組み
- ・既存の事業所や団体と連携する仕組、商工会、JA、社協等
- ・社会教育(団体)につながる

など

資料2

子ども部会 の報告



第1回子ども部会の様子

実施経過

① 合同部会 令和6年 8月 8日(木)

テーマ:子ども部会の進め方、新たな学校についての質問・意見 等

② 小学生部会 令和6年 9月25日(水)

中学生部会 令和6年10月 9日(水)

テーマ:ワクワクドキドキする学びについて、小中学生に意見を聞くアイデア 等

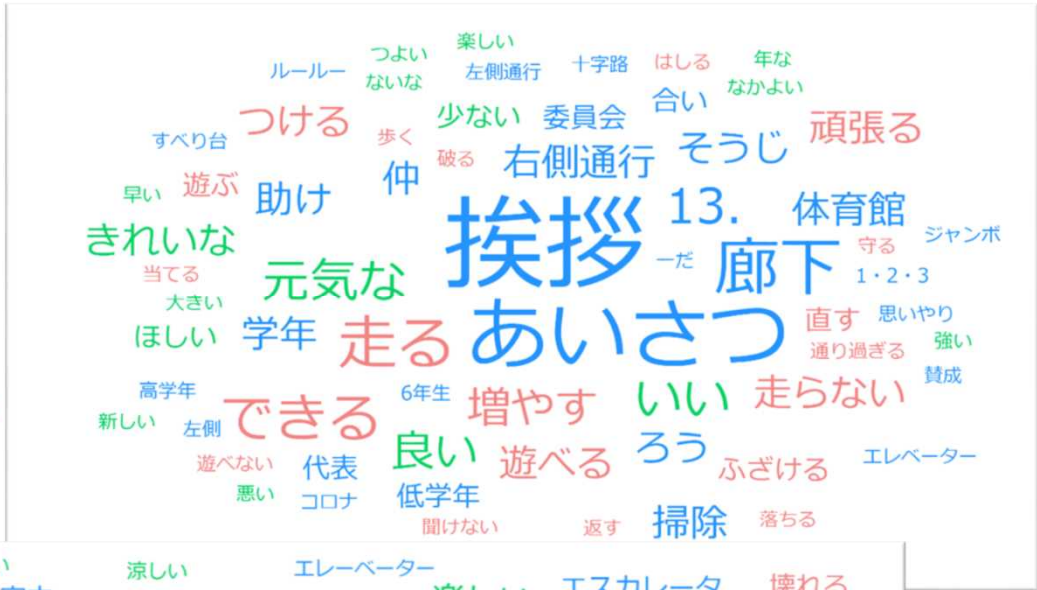
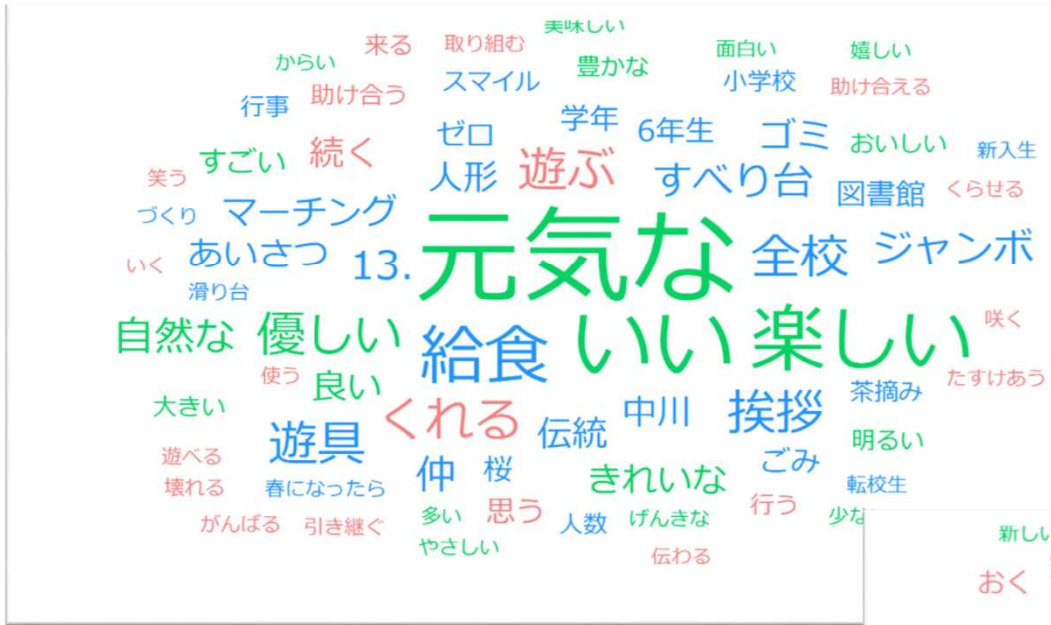
③ 小学生部会 令和7年 2月14日(金)

中学生部会 令和7年 3月13日(木) 予定

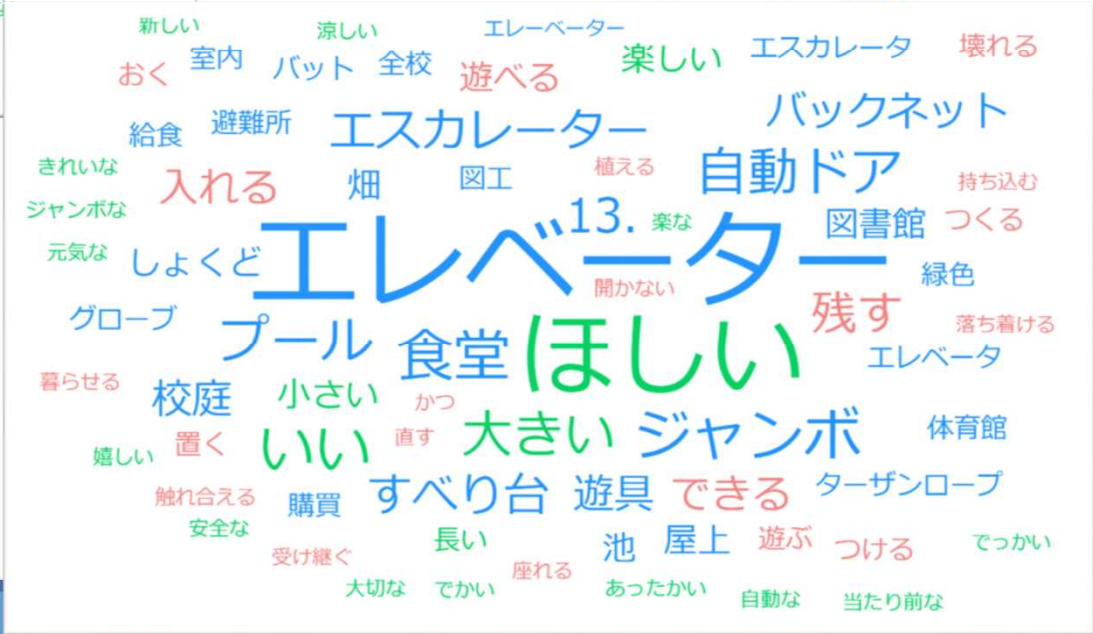
テーマ:必要な学びや校舎の工夫、学校づくりへの参画の仕方 等

出された意見等

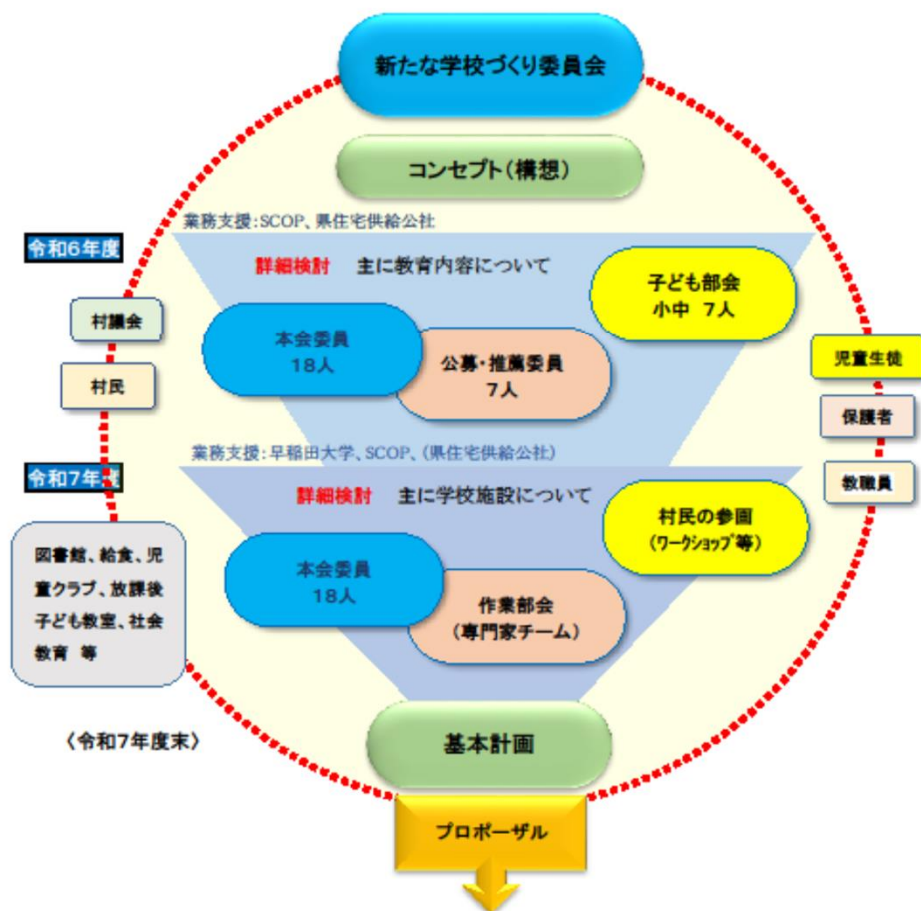
- 小中学校が一つの学校になるので具体的に生活がどうなるかに関心、校舎の工夫について子どもたちの見方がある。これからも意見を聞く機会が必要だと感じた。
- 「楽しい」「わかる」授業が大切。部会で検討した「ふるさと中川学（仮称）」の内容には、ワクワク学び、リアルに体験することができるということを示してくれた。
- 新たな学校づくりへの参画の仕方への意見
 - 「今の中学生（小学生）は、新しい学校は自分とは関係ないと思っている人が割と多い」
 - ・ 新しい学校をより良くしたいという説明を行った上で…
 - アンケート調査を行う（人前でしゃべるのが苦手な人もいる）
 - 授業等を利用して項目を絞って話し合いを行う 等



小学生委員が自主的に 企画し取り組んだ アンケート調査 (中川西小学校)



令和6・7年度 中川村新たな学校づくり委員会



■ 委員会のねらい:「基本計画」の策定

令和6年度:主に教育内容について

令和7年度:主に学校施設等について

■ 委員会の構成

・本会 委員長 早坂 淳氏(長野大)

副委員長 宮下進吾氏(商工会)

各分野からの推薦等 18名 任期2年

・部会検討 本会委員+公募委員+推薦委員

公募 若者枠 3名 一般枠 3名 任期1年

教育委員会が適当と認めた者 1名 任期1年

・子ども部会

小学校4名 中学校3名 計7名 任期1年

・作業部会(専門家チーム)

専門アドバイザー 田中 智之氏(早稲田大学)

資料3

令和6年度 詳細検討



第5回部会検討 ワークショップの様子

実施経過 主に教育内容について検討

第1回委員会(本会) 7月11日

部会検討① 9月19日

部会検討② 10月24日

部会検討③ 11月21日

部会検討④ 12月19日

部会検討⑤ 1月23日

第2回委員会(本会) 2月28日

子ども部会

部会① 合同 8月 8日

部会② 小 9月25日

中 10月 9日

部会③ 小 2月14日

中 2月 日

先進事例視察

① 5月29日 ② 12月 9日

探究学習 「ふるさと中川学(仮称)」 ↔ 教科学習

【横軸】保・小・中12年間を系統的に学ぶ

【縦軸】探究の基礎⇒共通テーマについて学習・体験・

探究⇒わたしの探究

学びの題材 中川村の美しさ(魅力)⇒ワクワク学び、リアルに体験

- ・中川村の多彩な人々⇒出会い、学ぶ
- ・中川村の豊かな自然、美しい景色⇒遊び、守る
- ・中川村のおいしい農産物(農業)⇒作り、食べる
- ・中川村の暮らしや歴史・文化など⇒楽しみ、担う

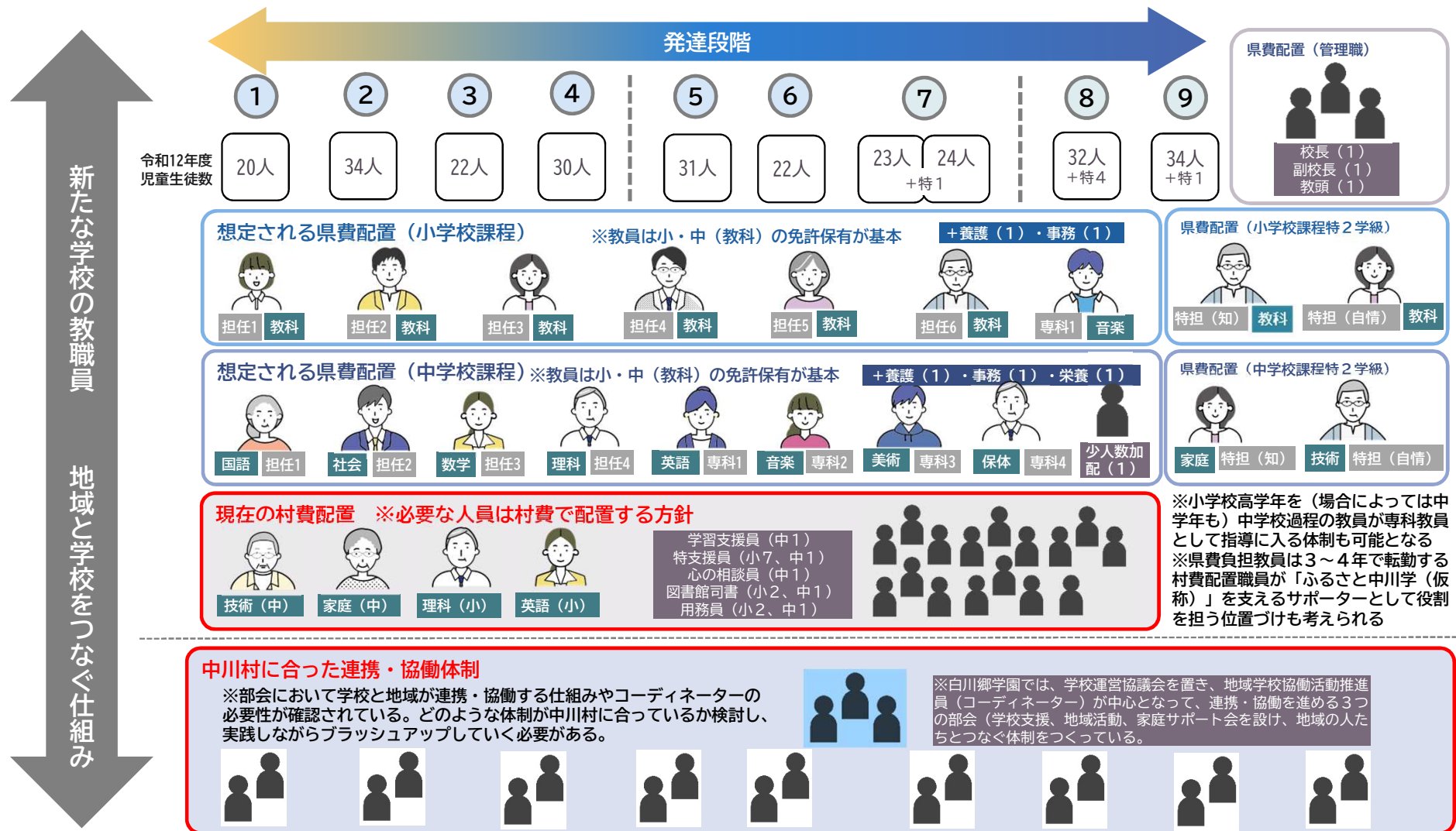
地域と協働 学校と地域をつなぐ仕組み

- ・学校運営協議会の設置（国型コミュニティスクール）
- ・中川村ならではの学校と地域をつなぐ仕組み
- ・学校と地域をつなぐコーディネーター（あるいはその機能）
- ・地域が学校と協働して教育に取り組む 等

校舎の工夫 コンセプトの実現、地域とともにある学校

図書館（学校＋公共）、食堂（ランチルームの開放）、
カフェの併設、展示スペース、 地域の方が利用できる
（学べる）教室、一足製の導入、ICTの充実、一人になれたり
ごちゃまぜになれたりする空間、エレベーターの設置 等

再掲



学校運営協議会 新たな学校の運営に参画し、基本方針や教育活動、必要な支援に関する協議を行う



学校



保護者



地域



行政



専門家

例えば・・・部会型
(学校支援部、地域活動部
等)



地域学校協働活動推進員
(地域コーディネーター)



推進員



地域の協力者
(学校支援ボランティア)

例えば・・・プロジェクト型
(農業プロジェクト、自然プロ
ジェクト等)



地域学校協働活動推進員
(地域コーディネーター)



推進員



地域の協力者
(学校支援ボランティア)

例えば・・・コラボ型
(公民館、団体、有志の学
習会等)



地域学校協働活動推進員
(地域コーディネーター)



推進員



地域の協力者
(学校支援ボランティア)

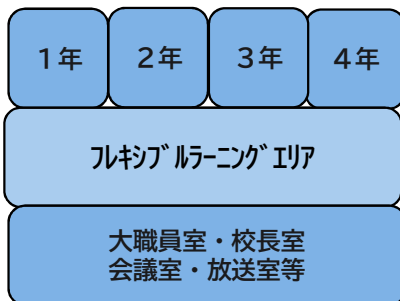
地域とともに
(開放の度合い)

クローズド

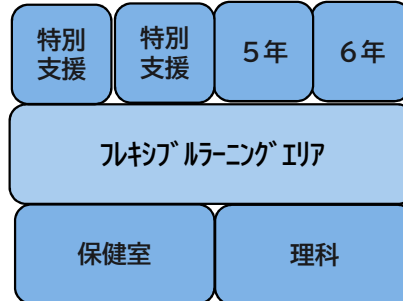
セキュリティ

オープン

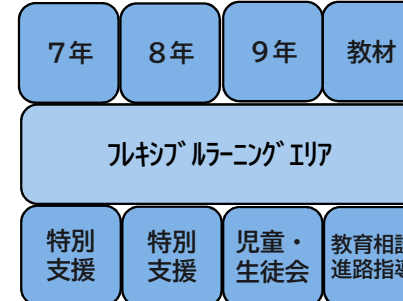
オープン（可能）な教室



オープン（可能）な教室



オープン（可能）な教室



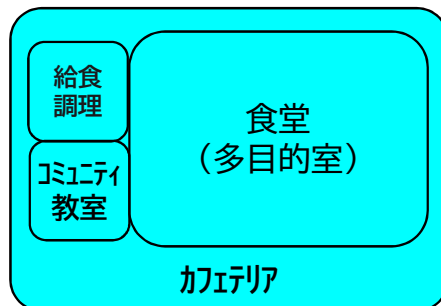
家具により空間機能を
高める

廊下から学習や談話
等を意図したエリアへ

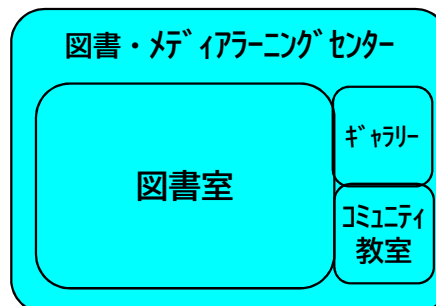
生活面にも配慮した空間



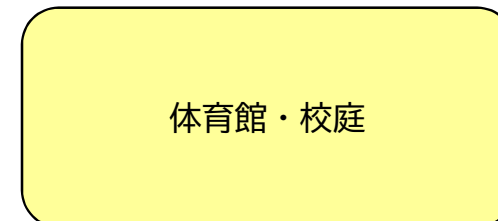
クリエイティブな特別教室エリア



図書・メディアラーニングセンター

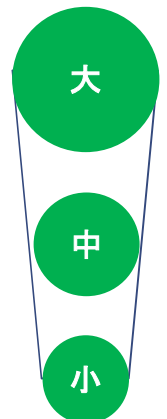
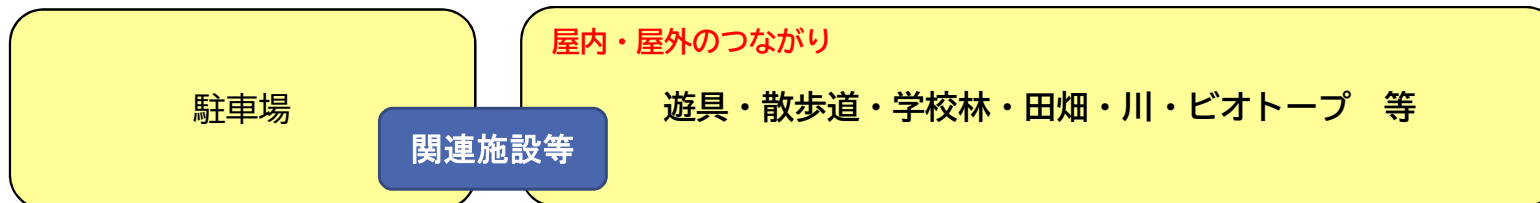


空間を有機的につなぐハブ



学びの多様化に伴う
教室サイズ の多様化

屋内・屋外のつながり



資料4

令和7年度 詳細検討



第5回部会検討ワークショップの様子

基本となる推進計画案①

第1回シンポジウム	5月	〈キックオフシンポ〉 講演やワークショップ等
第3回委員会(本会)	6月	シンポまとめ、方向性の検討等
作業部会(専門家チーム会議)		新たな学校の練り上げ
		6月～10月 ※子どもや先生方等とのセッションも
第4回委員会(本会)	9月	基本計画案、施設構想等の検討
第2回シンポジウム	10月	基本計画案、施設構想ワークショップ等
第5回委員会(本会)	11月	基本計画案、プロポ関連資料等の検討
パブリックコメント	12月	基本計画等村民からの意見募集

基本となる推進計画案②

第6回委員会(本会)	1月	基本計画案、プロポ資料案決定
第1回プロポ審査会	1月	プロポについての検討
公示	2月	
第2回プロポ審査会	2月	一次審査
〈令和8年度〉		

第3回プロポ審査会 5月 二次審査⇒設計業者の決定

※学校施設基本計画⇒基本設計⇒実施設計



建設予定地

現中川中学校
敷地
37,300m²

- ・ 子供も含めた村民の参画
- ・ 工事期間に在籍する生徒にも配慮した建設計画
- ・ 牧ヶ原文化公園との連携
- ・ 児童クラブ等学校以外の施設の検討
- ・ 隣接する公営住宅敷地の将来的利用の見通し

長野スクールデザイン2020

○これからの学びにふさわしい学習空間について長野県教育委員会が設置した検討委員会で検討された。

〈構成する4つの要素〉 これまで〈画一的な教室、移動だけの廊下〉⇒空間のデザイン⇒新たな学校

- ① **学習空間**: 知識を蓄える学びから、能動的な活動により理解を深める「探究的な学び」の実現課題発見・調べ学習、グループワーク、発表、様々な学習スタイルに対応する空間
- ② **生活空間**: リラックスし、生徒交流等を生む空間 居心地を良くし、快適な学校生活を送れる空間
- ③ **執務空間**: 教科毎の研究室の分散配置から、教員全体が集う大職員室の設置へ
- ④ **共創空間**: 地域や社会の方が学校に来訪し、一緒に考え、何かを想像する地域連携協働室等

長野スクールデザイン2020

○空間を補助する要素

屋外とのつながり、家具の役割

○空間の配置

多用途に使える空間、空間を有機的につなぐ「ハブ」の重要性

○室の高い豊かな空間

居心地がよい空間、音や温熱への配慮、断熱性の向上、ユニバーサルデザイン

○長期的な視点による施設整備計画

維持管理、自然エネルギーの活用、可能性の高さ、持続可能な社会、SDGs

○地域と共生する学校

社会的資産、長野県の多様性、複合化や共有化、防災拠点としての施設

※これからの学校を整備していくための手法や仕組みづくり